

奥秩父縦走 ～ 奥秩父の森を歩く

2016年7月14日(木)～17日(日)

メンバー: 池田T

奥秩父の山歩きを3日間堪能した。天気は曇りか雨であったが、おかげで暑くなかったし、霧が立ち込めて雰囲気のある森を楽しむことが出来た。

ルートは全般的に明瞭である。人に会ったのは大弛峠の前後・甲武信ヶ岳・雲取山より東で、それ以外は誰にも会わず静かな山歩きを楽しんだ。

3日間の合計歩行距離は約70km。自分にとってはチャレンジであった。奥多摩駅に着いた時はホッとすると同時に達成感を味わった。

7/14(木) 曇り時々雨 一時晴

●瑞牆山荘～金峰山

瑞牆山荘の奥の駐車場に車を停めて出発。歩き始めてじきに雨が降りだした。樹林帯なので雨が直接当たるのは少ない。出だしから期待通りの雰囲気のある森である。

大日岩の手前あたりで一旦視界が開ける。南アルプスの山々が良く見えた。

この頃には青空が広がってきた。再び森の中に入った後。標高2400mあたりで再び視界が開ける。瑞牆山を望むことが出来た。金峰山への尾根道は所々で岩場になっているが特に難しくはない。金峰山の山頂では快晴。誰もいない山頂を独り占めにした。



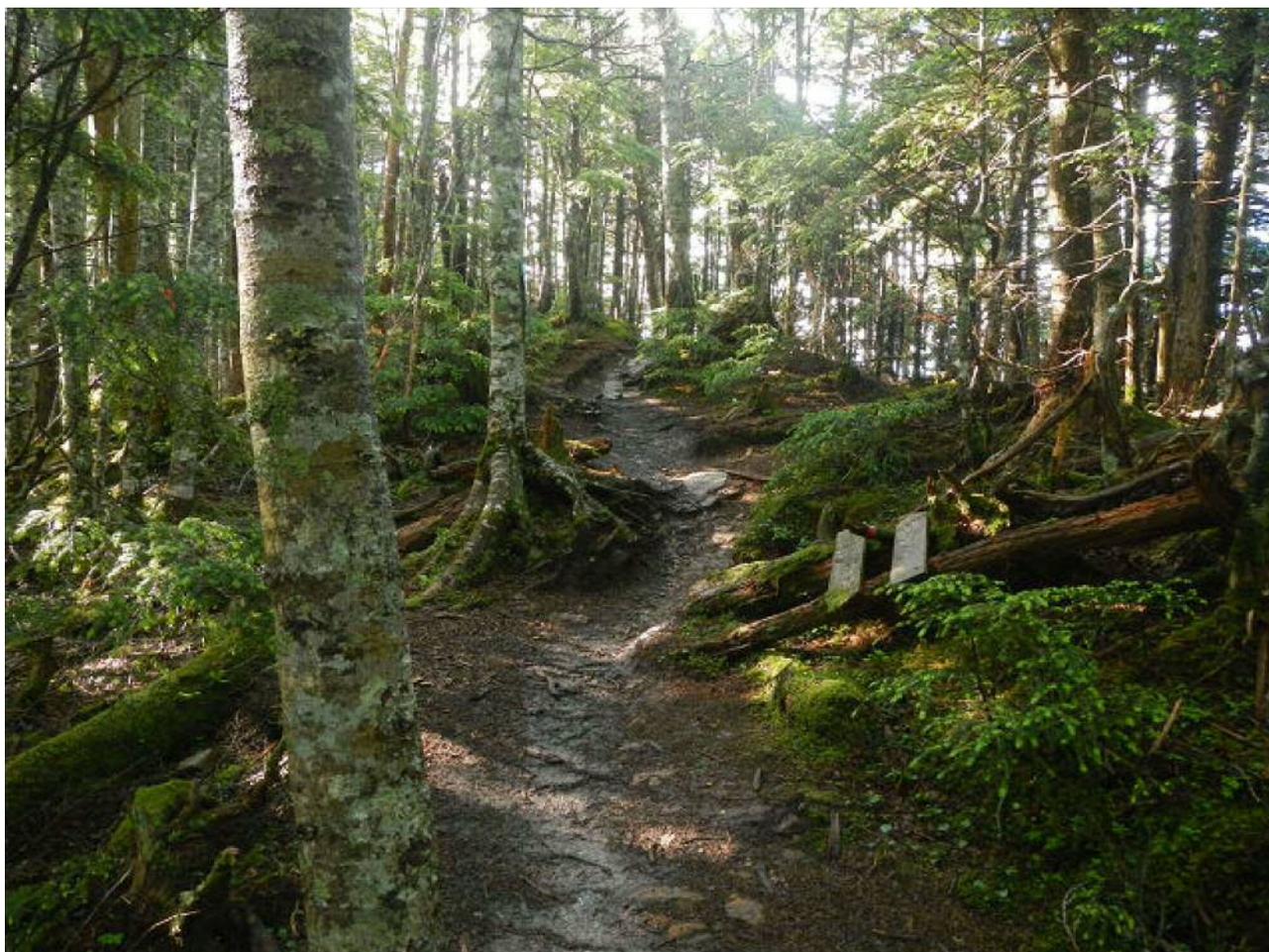
瑞牆山荘の向かいから長い縦走が始まる



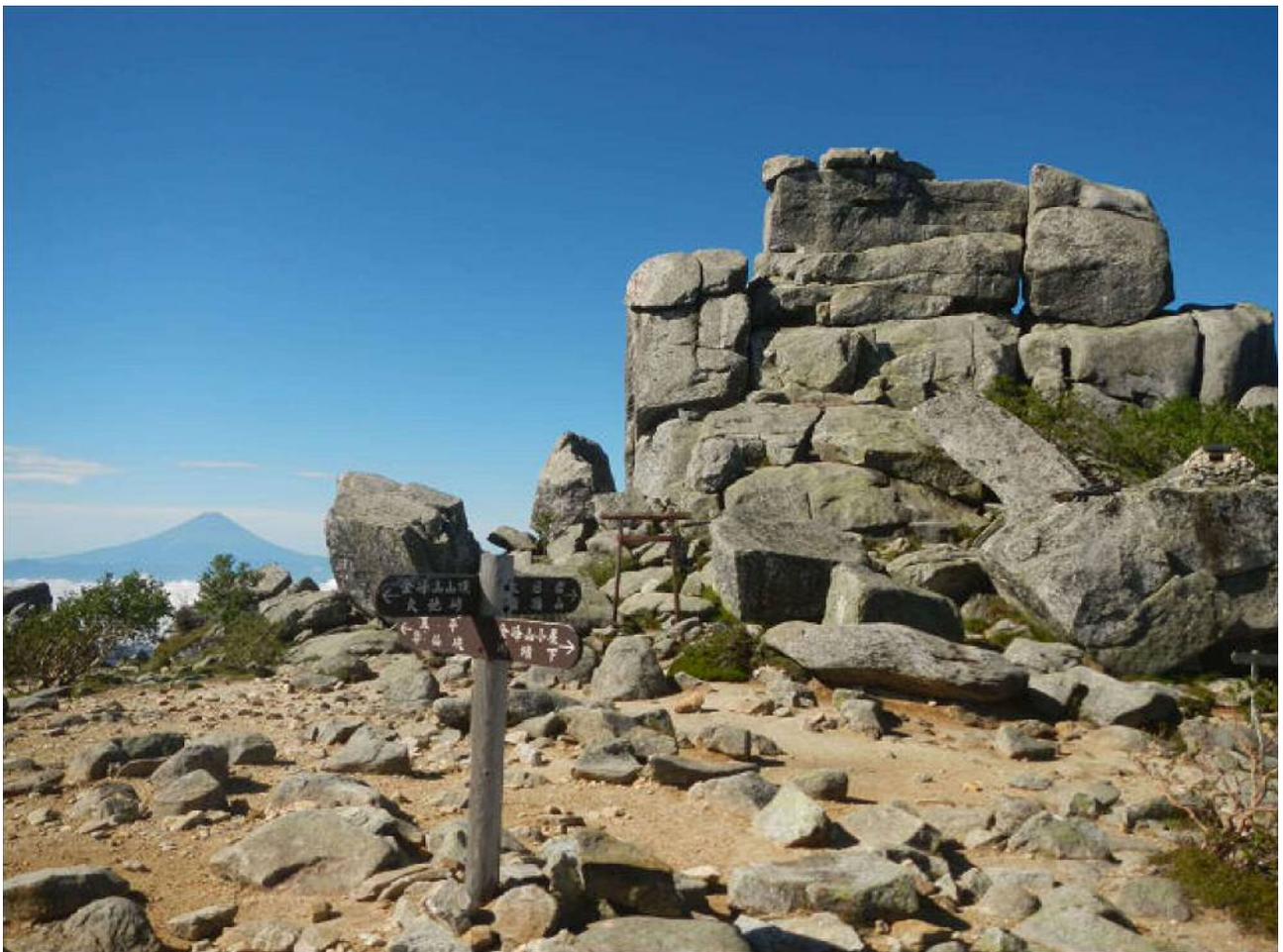
大日岩付近からの眺め。南アルプスの山々が見える



大日岩。クライミングができそう



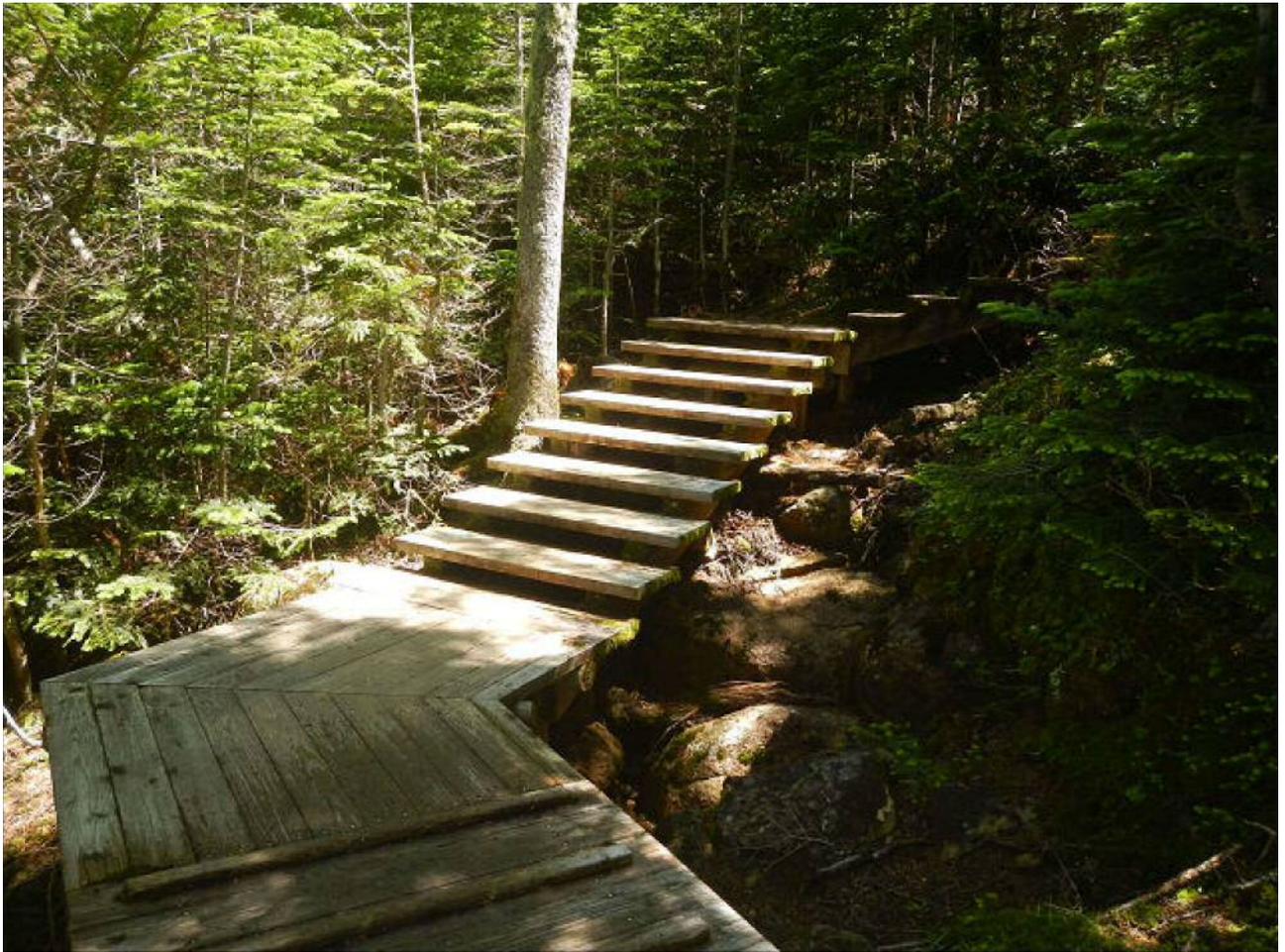
砂払いの頭(2317m)付近



金峰山の五丈岩。富士山が遠望できた。



大弛峠の駐車場。平日でもそれなりの台数。



大弛峠からしばらくは木道が続く



国師のタルの手前。森の中に小径が続く



甲武信ヶ岳の山頂。誰もいなかった。



甲武信小屋のテント場。この後に雨が降る

●金峰山～大弛峠～甲武信ヶ岳

しばらくは視界が開けた尾根道を歩く。鉄山の手前あたりで再び森の中。日差しが凌げるので助かる。シラビソ、大シラビソ、トウヒを中心とした森の中を進む。大弛峠までは多くの人にすれ違った。峠の駐車場には多くの車が停まっていた。

大弛小屋は道路から山道を少し入った所にある。小屋の裏手から山道に入って行くのだが、木の階段が延々と続いている。大弛峠から相当多くの登山者が入るのであろう。登山道は大きくえぐれている。周辺ではシャクナゲがきれいに咲いていた。

国師ヶ岳の山頂を過ぎると再び樹林帯。苔むす森の中に小径が続いている。良い雰囲気である。この地方では峠のことをタルと言うらしい。国師のタル、大弛峠もそう。峠は山の稜線がたるんでいるように見える所から来ているのか？

甲武信ヶ岳の山頂に着いた時には曇っていてあまり展望は得られなかった。人もいなかった。甲武信小屋に降りてテントの受付をする。今回は軽量化のためにツェルトにした。ストックを使って案外うまく張ることが出来た。居住性も悪くない。ただ、夕方から雨が降って来た。これまた軽量化のためにシュラフをやめてカバーとインナーシートだけにしたのだが、寒くてあまり寝られなかった。

<タイム>

瑞牆山荘の奥の駐車場5:00 – 富士見平小屋5:53 – 金峰山8:13 – 大弛峠10:15 – 国師ヶ岳10:50 – 甲武信岳15:00 – 甲武信小屋15:15 (10h15m)

7/15(金) 雨時々曇り

雨は朝になっても降り続いていた。懸念していた雨漏りは無かったがツェルトの内壁は完全に濡れている。雨の中、パッキングして霧の中の道を進む。

雨は弱いので樹林帯の中ではほとんど気にならない。しっとりとした森に雰囲気味わえるし暑くないのでむしろ好都合だ。

歩き始めて30分ほどで破風山避難小屋を通過。小ざれいな小屋で、昨夜はここに泊まれば良かったと後悔した。雁坂嶺の山頂は展望ゼロの地味なピーク。雁坂峠は霧で視界が悪かった。もちろん誰もいなかった。

水晶山の手前は苔むした雰囲気が最高だった。一方で山頂は平凡だった。古札山の山頂付近は背の低い笹の原で開けている。ピクニックに良さそうだ。

雁峠に向かって大きく下る。この先の笠取山がそびえ立って見えるので登り返しが大変そうだなと思う。雁峠は明るくて開けている。雁峠小屋は木造2階建ての校舎のような建物だが、幽霊が出そうな廃屋である。中を覗く気分にはなれなかった。

笠取山への登りはかなり急な上に、強い雨に降られた。バテないように一步一步確実にゆっくり歩いた。ここから先、将監小屋まで本当に静かで地味な山道だった。

今日の目的地である将監小屋へは将監峠からひと下りであった。計画通り2日目にここまで来れたことで今回の山行のメドが立った。

<タイム>

甲武信小屋5:20 – 西破風山6:40 – 雁坂峠7:33 – 雁坂峠8:00 – 雁峠10:00 – 笠取山10:52 – 将監小屋14:00 (8h40m)



破風山避難小屋



水晶山の手前。苔むす世界



古札山のピークを越えた所に立つ老木



中に入る気にはなれない雁峠小屋



笠取山と唐松尾山の間あたり



将監小屋。テント場は隣接している

7/16(土) 曇り 将監小屋からしばらくは延々とトラバース道が続く。平凡で退屈な道であった。雲取山へは急な登り。

まだ先は長いのであせらずゆっくり登った。そして今回の縦走の最後の主要ピークである雲取山の山頂へ。ただ残念なことにガスで展望は全く得られなかった。到着したのが9時で時間が早かったのか最初は誰もいなかったが、やがてポツポツ人がやって来た。奥多摩方面に下り始めるとわらわらと人と登って来た。トレイルランナーも多い。やはり東京都の最高峰である。登山道は林道のように幅広かった。

ブナ坂あたりでようやく森歩きを楽しめる雰囲気になってきた。

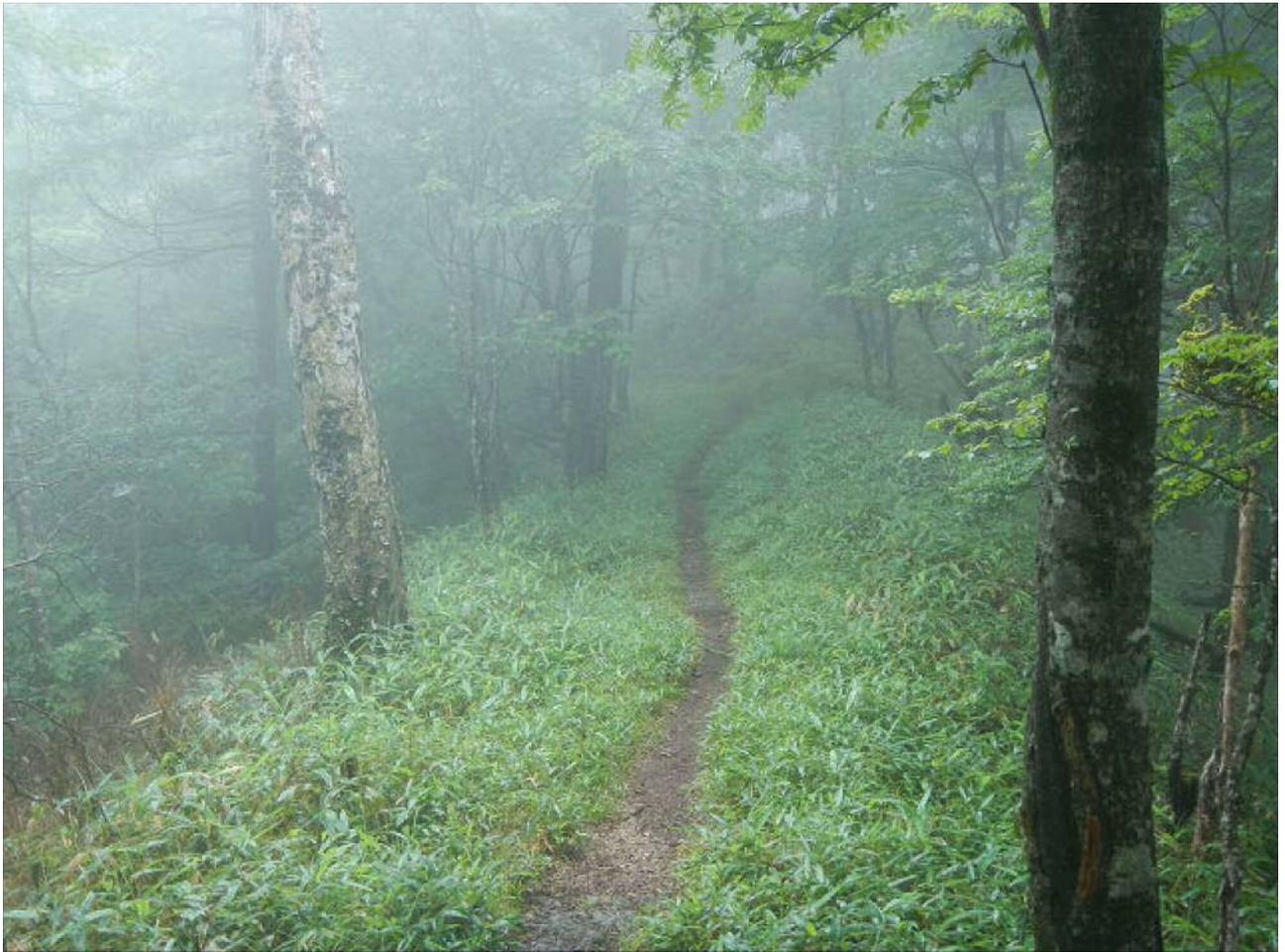
三ノ木山ぐらいまではブナを楽しめる。そこから先は杉林である。登山者が多すぎるのか登山道が掘れてしまっている上に泥でぐちゃぐちゃで大変だった。

奥多摩の町に出て駅に向かう。今日だけで30km以上歩いた。長かった。しばらく駅前広場のベンチに座り込んでしまった。

瑞牆山荘に車があるので戻る必要があるが今日は無理なので氷川キャンプ場に泊まる。キャンプ場はファミリーキャンパーで一杯で、その中でツェルト張るのは少しだけ恥ずかしかった。近くのスーパーでビールを買って一人で乾杯した。

<タイム>

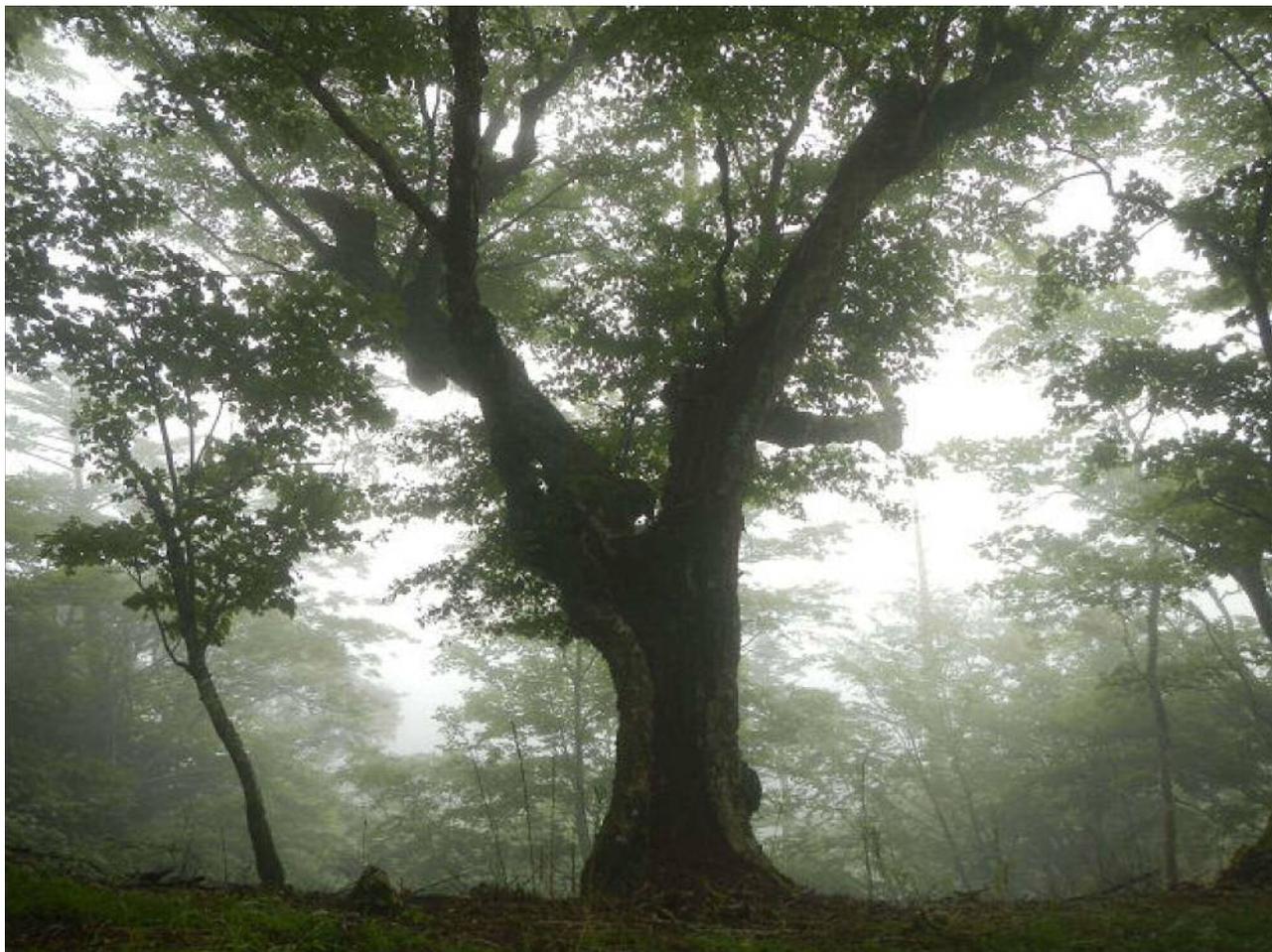
将監小屋4:35 – 雲取山9:15 – 奥多摩駅16:45 (12h10m)



雲取山手前1km付近



雲取山の山頂は地味だった



立派なブナの木。セツ石山を越えたあたり



やっと着いた奥多摩駅。ここまで長かった

7/17(日) 曇りのち晴れ

今日は移動日。青梅線、中央線と乗り継ぐ。蕨崎駅からは瑞牆山荘行きのバスに乗る。久しぶりの電車とバスの旅を楽しんだ。

瑞牆山荘の奥の駐車場で着いたら満車でびっくりした。自分が出発した時には1台しか停まっていなかったのに。

増富温泉で汗を流して帰宅した。

以上